

事業名	トコブシ母貝供給モデル開発試験
予算区分	地方創生推進交付金
事業実施期間	R4～R6
担当者	石川貴志、小倉季人（海洋生産技術担当）
共同研究機関等	

<目的>

海洋環境の変化に伴い、アワビ漁獲量は減少傾向にある。漁業者は、禁漁区の設定や種苗放流で資源回復に取り組んでいるが、アワビの成長は遅く、効果発現には時間がかかる。さらに、高水温化の影響で、成長が早いトコブシ*Haliotis diversicolor*への漁が増加し、資源への過剰な漁獲圧が懸念されている。小島ら（2022）の海部郡牟岐町における調査では、成熟したトコブシの最小サイズは殻長32 mmであり、県規則では殻長30 mmから採捕可能であり、産卵母貝の減少による再生産の阻害が指摘されている。そこで、本事業では、トコブシ資源の持続的な利用を目指し、禁漁区の設定や人工種苗の放流による、トコブシ母貝供給モデルの開発に取り組む。

<方法>

令和6年2月2日にヌノシマ北東の区画に10 m四方のロープを敷設し、トコブシ禁漁区（以下ヌノシマ禁漁区）とした。2月28日にヌノシマ禁漁区及びR4年度に設定した禁漁区のウメトラ（以下ウメトラ禁漁区）へ種苗を計8,000個放流した（表1、2）。放流種苗には、天然個体との識別を明確化するため、計500個体に金属製の標識を装着した（写真1）。

表1. 放流種苗の内訳

	個数	平均殻長（mm）	標識装着数
R3種苗	7,000	37.3	400
R4種苗	1,000	28.3	100

表2. 禁漁区ごとの放流個体数

	個数
ヌノシマ禁漁区	4,500
ウメトラ禁漁区	3,500

放流から2週間となる3月11日にヌノシマ禁漁区及びウメトラ禁漁区で追跡調査を行った。調査方法は、3名で潜水し、ヌノシマ禁漁区は3名が横並びで調査を行い、禁漁区内をくまなく調査した。ウメトラ禁漁区は、範囲が広いため、3名で30分間各自で調査を行った。

<結果>

ヌノシマ禁漁区で1,952個体の放流種苗が確認できた（写真2）。うち、金属標識が装着されているのが確認できたのは4個体だった。また、天然トコブシ12個体も確認できた。

ウメトラ禁漁区については、25個体の放流種苗が確認できた。金属標識が装着されている個体は確認できなかった。

<今後の課題>

禁漁区を設定するにあたり、関係者の合意を得る必要がある。また、種苗放流を行うための費用が発生するので、その費用を分担、補填等の施策が必要である。

＜次年度の計画＞

産卵時期（8月～11月）に追跡調査を行い、放流種苗の成熟状況を確認する。

＜結果の発表・活用状況等＞

他地区での禁漁区設定に向け、本試験成果の周知を行っていく。



写真1. 金属標識を装着した個体



写真2. ヌノシマ禁漁区の放流後の種苗

参考文献

小島博・廣澤晃・森啓介・中西達也・上田幸男．徳島県牟岐町地先における人工種苗および天然産トコブシの成長と産卵に関する知見．徳島水産報第14号，2022．